

# 活力ある持続可能なまちで あるために

## はじめに

五條市は、紀伊半島のほぼ中心に位置し、いにしえから「紀州街道」「河内街道」「下街道」「伊勢街道」「西熊野街道」の五つの街道が交わる交通の要衝として多くの人々や文化の往来を育んできました。



吉野川河川敷を泳ぐこいのぼり

奈良時代に建立された国宝八角堂のある榮山寺をはじめとした神社仏閣、南朝ゆかりの賀名生皇居跡、北畠親房公の墳墓、大塔宮遺跡などの史跡、古墳などの貴重な歴史資源が数多く分布しています。

## 本市が届ける風景

江戸時代には、市の中心部に幕府の代官所が設置されるなど、このころから南部地域の政治的中心地としての役割を果たしてきました。本市は、明治維新の先駆けとなった天誅組義拳の地であり、明治維新発祥の地としての歴史を有しています。

豊かな自然と歴史・人のぬくもりが息づく本市では季節ごとにみられる風景があります。

春、まちを彩るのは賀名生梅林です。雲海のように梅の花がほころび、ほのかな香りが山々を伝うように漂ってきます。南朝ゆかりの地としても知られる



吉野川祭り納涼花火大会

この地では歴史と自然が調和した静かな美しさがあります。訪れた人にだけ悠久の歴史と四季の移ろいを感じ取ることができます。また、川や水の大切さを学び、吉野川の清流に住む多くの生き物に触れ合うためのイベント、川開きフェスタでは、吉野川の河川敷に色とりどりのこいのぼりが泳ぎ、川辺には毎年家族連れやカメラを手にした人々が多く集います。

夏の風物詩といえ、花火大会百選に選出されている本市自慢の吉野川祭り納涼花火大会は色とりどりの花火が圧巻で、毎年県内外から多くの人が訪れ、た



市町村別で生産量1位を誇る柿

くさんの笑顔であふれています。

秋になると、山々は鮮やかな柿色に染まります。本市は7月初めのハウス柿から、12月末の冷蔵富有柿までの約6カ月間、柿が出荷され、市町村単位での収穫量は日本一です。また、柿の消費拡大を図ることを目的に、平成25年から毎年、総理大臣官邸の表敬訪問を行っています。

さらに、柿の葉を使った柿の葉すしや柿渋染めなど柿を使った加工品も多く、柿は単なる農産物にとどまらず、まちの象徴として魅



重要伝統的建造物群保存地区の五條新町

力を発信し続けています。

そして、旧紀州街道筋の五條新町には、江戸時代からの古いまち並みがあり、往時の面影を今に伝えています。平成22年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、まち並み保存の取り組みを推進しています。

## 子どもを育てたいまちをつくる

本市では、0歳から15歳までの切れ目のない、学び・育ちの連続性を重視した教育・保育の実現に向けた取り組みを進めています。

現在、就学前教育・保育に対し多様化する就学前教育・保育ニーズに対応するとともに、柔軟かつ効率的な認定こども園の運営に向け、民間活力を活用した公私連携幼保連携型認定こども園へ本年4月から移行できるよう、関係機関と連携し取り組んでいます。

そして、次代を担う子どもたち

が健やかに成長することができるよう、乳児家庭に紙おむつを届けるすすく子育て定期便を実施しています。市職員がご家庭を訪問し、子育てに関する悩みや困りごとの相談に早期対応するなど、子育てしやすいまちづくりに努めています。

さらに、令和6年4月から、奈良県内の12市で初めて公立小・中学校の学校給食費の無償化を実施し、第2子以降の保育料の無償化にも取り組んでいます。

また、奨学金返還を支援する補助制度を創設し、就労初期における経済的な負担の軽減を図り、若者の転出抑制や結婚、出産の希望をかなえ、本市への定住促進に取り組んでいます。

## 中心市街地活性化事業

旧イオン五條店跡地周辺にイオンリテール株式会社と連携した、図書館機能を中心とする公共複合施設である（仮称）五條市市民交流施設の整備を公民連携で進めているところです。この施設は、中心市街地における市民の交流や広域的な集客を生み、本市のにぎわい創出の核となる重要な役割を担う

施設と位置づけております。今後とも市民が連携しながら、より良い市民サービスを提供できる施設となるよう、令和11年のオープンを目指して事業を進めていきます。

## 結びに

本市では、「子育て・教育」「まちのにぎわい創出」「移住・定住促進」などを軸に、地域に根ざした施策

を実施しています。人口減少という厳しい現実の中でも、「選ばれるまち」へと確実に歩みを進めています。今後、市民一人一人がさらにこれらの施策を実感できるものにしていくこと、そして他にはない「五條市らしさ」を生み出し続けていくために、新しい価値を追求し、より一層「挑戦」してまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 292.02km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万6492人
- ◆ 世帯数 1万3329世帯

〔将来都市像〕ひと・まちが交わり、新たな価値が生まれるまち。誰もが生き生きと、安心して暮らし続ける「まちの特徴」紀伊半島のほぼ中心に位置し、吉野川などの豊かな自然や多数の重要文化財を誇る歴史が共存する日本一の柿のまち

〔市町村合併〕平成17年9月25日、五條市、西吉野村、大塔村の3市村が合併



五條市長  
平岡清司



〔特産品〕柿、梅、柿の葉ずし、割り箸、鮎、ジビエ、花木  
〔観光〕吉野川、新町通り、賀名生梅林、榮山寺、柿博物館、五万人の森公園、市立五條文化博物館、幻の五新鉄道、波宝神社、柿狩り  
〔イベント〕吉野川祭り納涼花火大会、念仏寺陀々堂鬼はしり（重要無形民俗文化財）、天平行列、篠原踊り（県無形民俗文化財）、柿の里まつり、吉野川河川敷でのこいのぼり掲揚、五條ふえすていバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



## わが

人と企業とスポーツが創る  
近未来鳥栖九州のクロスポイントの  
まち 鳥栖

鳥栖市は、佐賀県の東端、福岡県との県境に位置し、古くから長崎街道の宿場町として栄え、明治22年に九州初の鉄道路線（現在のJR鹿児島本線）の開通に伴い鳥栖駅が設置されたことで、鉄道のまちとしての礎がつけられました。

その後、昭和30年代から国道の整備拡充や高速道路の整備が進んだことで、九州陸路交通の要衝として発展を続け、九州自動車道と長崎・大分自動車道が交差する鳥栖ジャンクションや平成23年に全線開通した九州新



サザン鳥栖クロスパーク

線開通した九州新

幹線の新鳥栖駅、JR鹿児島本線と長崎本線が分岐する鳥栖駅など、九州の交通結節点として、ヒト、モノの交流が盛んなまちです。

このような圧倒的な地理的優位性を背景に、市制施行以来、一貫して企業誘致を推進してきました。市内の七つの産業団地は、製造業や卸売業、流通業をはじめとした企業の進出によって盛況のうちに完売しており、市と進出協定を締結した企業は217社に上ります。直近では、令和11年にアサヒビール鳥栖工場が操業開始を予定しています。

現在、小郡鳥栖南スマートインタールチェンジに近接する約34haに市内八つめとなる産業団地「サザン鳥栖クロスパーク」の開発を官民連携で進めています。本市が持つ九州の陸路交通の要衝という強

みを最大限に発揮し、これからも企業誘致により一層取り組むことで、企業が集い、人が集まるまちを目指していきたいと考えています。

## スポーツのまち 鳥栖

本市は、サッカーJリーグに所属する「サガン鳥栖」とバレーボールSVリーグに所属する「SAGA久光スプリングス」のホームタウンです。JR鳥栖駅のそばには鳥栖スタジアム（駅前不動産スタジアム）があり、ユニフォーム姿の多くのサポーターが市内外からサガン鳥栖の応援に駆けつけ、スタジアムは熱気に包まれます。令和5年には、鳥栖スタジアムの隣に「サロンプラスアリーナ」が完成しました。この施設は、SAGA久光スプリングスの練習拠点となっているほか、市民にも開放さ



鳥栖スタジアム（駅前不動産スタジアム）

れ、バレーボールをはじめさまざまなスポーツを楽しむことができます。

本市にとって、サガン鳥栖とSAGA久光スプリングスは、鳥栖市の名を全国へと広め、子どもたちに夢を与えてくれるかけがえのない宝であり、鳥栖市民の誇りです。

さらに、本市は、野球や駅伝などさまざまなスポーツも盛んなまちです。

野球では、横浜ベイスターズで監督を務め、チームを日本一に導



サロンパス®アリーナ

いた権藤博さんや広島東洋カープで監督を務め、チームを球団史上初のセ・リーグ3連覇へ導いた緒方孝市さんなど数多くのプロ野球選手を輩出しています。

鳥栖工業高校は、全国高等学校駅伝競走大会の常連校です。令和6年の大会では、選手全員の粘り強い走りで7位に入り、34年ぶりの入賞を果たしました。

ほかに、レスリングやテニスなど個人や団体、世代を問わず多くの選手が活躍しています。このように、さまざまなスポーツが盛んな特性と九州のクロスポイントという地の利を生かして、さまざまなスポーツ大会の誘致を進めて

おり、スポーツを通じた交流が生まれるまちをつくっていききたいと考えています。

## 近未来鳥栖を創る取り組み

JR鳥栖駅は西側にしか改札がなく、鳥栖スタジアムなどがある駅東側との行き来が長年の課題でした。このため、駅東側からの利便性を高め、駅東側地区のポテンシャルを活かすため、新たな改札口を設ける事業を進めており、本市のさらなるにぎわいと魅力ある市街地の形成につながたいと考えています。



鳥栖駅東短期施策整備イメージ(令和7年8月8日(金)鳥栖市)

また、新たなスマートIC設置の調査検証を進めています。スマートICの設置により、安定した物流や人流を確保することによる経済のさらなる発展が見込まれます。

環境に配慮し、未来に責任を持つまちづくりも進めています。令和5年の「鳥栖市ゼロカーボンシティ宣言」では、2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロにすることを目指しています。また、

## プロフィール

- ◆ 面積 71・72 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 7万4424人
- ◆ 世帯数 3万4423世帯

〔将来都市像〕住みたいまち、活躍できるまち、選ばれるまち 鳥栖ー鳥栖スタイルの深化ー

〔まちの特徴〕古くは長崎街道の宿場町として栄え、その後鉄道のまちとして発展。九州の鉄道、高速道路の交通結節点



鳥栖市長  
向門慶人



〔特産品〕鳥栖駅のうどん、かしわめし、八起キャンデー、ジャガイモ、医薬品  
〔観光〕御手洗の滝、四阿屋遊泳場、沼川・河内河川プール、朝日山公園、勝尾城筑紫氏遺跡 ほか  
〔イベント〕鳥栖市祝成人人口ドレーズ大会、とす弥生まつり、鳥栖山笠まつり鳥栖、とす長崎街道まつり、ハートライトフェスタ ほか

ゼロカーボンを共に目指す事業所を「鳥栖市ゼロカーボン推進パートナー」として認定しており、現在、20社のご協力をいただいています。

先人から受け継いだこのまちを、今を預かる私たちみんなが手を携えて守り未来の世代に引き継いでいくために、行政、市民、事業者など、オール鳥栖で脱炭素社会の実現に向けてこれからも挑戦を続けていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。